其住 Refugees Number 34 2005年第3号

UNHCR ニュース

United Nations High Commissioner for Refugees



Contents

Operation Report

3 リベリア 地域住民参加型の 再定住促進 プログラム

Guest Column

5 いまなお空爆におびえ 貧しい生活に耐える難民 朝日新聞 北海道支社 報道部 網島洋一

Asylum in Japan

6 難民審査参与員制度の課題

Focus

7 UNHCRの予算・財務制度 第4回

Staff Profile

8 私とUNHCR 第14回

Special Report

9 子どもたちに明るい未来を! タイのミャンマー難民

From "Refugees" Magazine

10 スーダン南部 「爆弾があるなんて 銃が何かなんて 考えもしなかった」

6月20日「世界難民の日」

- 13 シンポジウム開催 「日本における難民支援のこれから」
- 14 沼田早苗さん「トークショー」

Information

- 15 グテーレス高等弁務官、就任 駐日事務所に新代表と副代表が着任
- 16 日本と庇護



Refugees

Number34

2005年第3号

--表紙写真--

イン(モノクロ)

- ◆反政府ゲリラ「神の抵抗軍」に襲われたウガンダ北部のスーダン難民キャンブから、恐怖に駆られ逃れる難民たち。UNHCRは約2万4000人の難民を安全な場所に移し、緊急援助を行った。2002年8月 UNHCR/S. Mann
- 左上 シエラレオネ、ギニアと国境を接するロファ州の道路。リベリアの15州の中でも14年間の内戦のためにもっとも荒廃した地域で、ここから国境をこえて逃れた難民は多い。現在、シエラレオネ、ギニアから難民が、他州から国内避難民が故郷をめざして帰還してきている。 UNHCR/S. Sato
- 左下 カレン難民が暮らすメラウ・キャンプでシャンティ国際ボランティ ア会(SVA)が運営する図書館。 UNHCR/S. Mezawa

Message from the Editor

アフリカでは、長年に亘る難民生活に終止符を打ち祖国に帰還する難民が増えている。ピーク時には約63万人のソマリア難民が暮していたエチオピアでは、難民のソマリア西部への帰国が進み、1万人を残すのみとなった。今号で報告されている西アフリカのリベリアでも、難民や国内避難民が故郷に戻りつつある。

このような明るい動きの一方で、新たな難民の流出も起きている。西アフリカのトーゴからは、激戦となった4月の大統領選挙後、ベナンとガーナに約4万人が難民となって逃れ、UNHCRの援助資金も限界に近づいている。中央アジアのウズベキスタンでは、5月に発生した騒乱により、人々がキルギスタンに庇護を求めた。UNHCRでは第三国への定住も含め、各国政府の協力の下、ウズベク難民の保護にあたっている。新たな難民問題が発生している地域と長期に亘る難民問題を抱えている地域への継続的な支援と解決に向けた努力が、これまで以上に必要となっている。

(UNHCR駐日事務所 広報官 箱崎)

掲載記事の転載をご希望の方は、事前に下記の UNHCR広報室にご相談下さい。なお、転載の際 には、記事の全文掲載をお願いします。

お知らせ

UNHCR駐日事務所はホームページを開設しています。 資料も紹介していますので、ぜひご活用下さい。

http://www.unhcr.or.jp

お問い合わせ先

UNHCR (ユー・エヌ・エイチ・シー・アール) 駐日事務所

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前5-53-70 UNハウス(国連大学ビル)6階

TEL 03-3499-2011 (代表) FAX 03-3499-2273

本誌に関するお問い合わせ先

TEL 03-3499-2310(広報室直通)

UNHCRニュース 2005年第3号

「難民 Refugees」No.34 2005年9月

発行人 ロバート・ロビンソン 編集 岸守一、箱﨑律香、野中聖子

デザイン 鈴木俊秀

制作 (株)トライ

UNHCRの援助活動は皆様のご寄付に支えられています。ご寄付は日本UNHCR協会を通じてお願いします。口座番号 00140-6-569575

加入者名 UNHCR協会(手数料加入者負担)

詳しくは裏表紙をご覧下さい。